

令和 3 年度第 2 回丹波市環境審議会

日時：令和 3 年 9 月 28 日（火）

13：30～15：30

場所：氷上住民センター 大会議室

出席委員

足立 正典、坂谷 高義、後藤 和敏、中道 知代子、近藤 明、横山 真弓、
荻野 良子、梅垣 守明、山科 ゆみ子、三浦 仁志、宮川 五十雄

欠席委員

安田 真理、森本 佳宏、喜井 健二、足立 はるみ、足立 榮逸、三橋 弘宗

事務局職員

余田部長、田口課長、荻野係長、村上主事

委託業者

株式会社サーベイリサーチセンター（SRC） 小林、西川

1. 開会あいさつ

- ・事務局より、委員 12 名出席により、会議成立の報告

会長：本日はお忙しい中、本会議にご出席いただき、ありがとうございます。9 月も終わり、少し寒くなってきた、ようやく秋めいてきました。また、コロナも 10 月 1 日から緊急事態宣言も解除されて、ワクチン接種も進んでいるということで、ようやく通常の生活に戻れそうな気がしています。本日の会議は、基本計画の話になりますので、活発なご意見をお願いいたします。

2. 協議・報告

（1）第 2 次丹波市環境基本計画の見直しについて

- ・事務局及び、委託業者より、資料の説明
（質疑応答）

会長：調査結果報告書の 2 ページ目に年代構成が書かれているが、発送した際の年代構成と集計した際の年代構成には乖離はあったのか。

事務局：20 代から 70 代の年代で、それぞれ同じ枚数を発送している。市民全体の意見を確認する際には、例えば、人数の多い年代にアンケートも多く送るという考え方もあるが、若い年代の意見も聞かないといけないということで、均等に配布している。

会長：若い人たちの回収率があまり良くなかったということになる。

委員：若い年代の方の考えをもう少し引き出す努力は必要ないのか。今後、丹波市の将来を考えると、若い世代をどう定着させるか、呼び込むかというのが重要な案件

だと思う。郵送で送付すると、お金がかかる割に回答しないと思う。丹波市はせっかく LINE とか色々とツールを持っているので、そういったものを利用して、もう少し短期間で若い方の意見を吸い上げるとか、今からだと難しいか。

事務局：市の他事例でも、インターネットを使ったアンケート調査等も実施しているので、内容を検討してもらえれば、対応できるものは対応していく。

委員：若い世代の考えとか希望を聞いた方が良いと思う。LINE とかグーグルフォームとか簡単にできるものがあるので、この調査で拾い上げられなかったもので、今後の丹波市の環境政策を考える上で重要な点だけでも聞けると、非常に充実したアンケートになると思う。アンケートの方向がイレギュラーになってしまうので何とも言えないが、政策を考えるためであればそのような手法をとっても良いと思う。

会長：若い人の意見が少ないので集計結果が市全体の意見となるのか、あるいは若い人の意見をもう少し取り入れた形で考えた方が良いのか、少し考えていくべきことだと思う。ただ、どうしていけば良いのかというのはなかなか難しいが、色々と情報収集はしていただきたい。

次に、計画改訂版についてご意見をお伺いしたい。

委員：5 ページの対象範囲に、色々な階層の言葉が入り混じっているのも、本当に網羅できているのかが分からない。例えば、「源流など」とあるが太い川は入っていないとか、里地と森林と里山は重なっているところがあると思う。また、農地は自然環境なのか生活環境なのか、両方の側面があるので、工夫が必要ではないか。

S R C：対象となる範囲については、再度見直しをして整理を行う。

事務局：今の時点で入れるべき項目や漏れ落ちの項目などがあれば指摘をいただきたい。

会長：例えば、資源環境に食料が入らないか。また、表の形で見てもすぐに分からないので、なかなか難しいとは思いますが、何か絵的なもので掲載すると分かりやすいのではないか。5つの環境分類がどうオーバーラップしているのかが分かるイメージが描ければと思う。そこに対象となる範囲とキーワードが入ると、ひと目見て分かるものができれば。

事務局：現行計画と同じように、今回もイラスト掲載を予定しているが、そのようなイメージ図が描けるかは検討する。

会長：続いて、第2章について何か意見はあるか。

委員：9 ページの気候は最近 10 年間の平均値になっている。これまではよく 30 年平均で見てきたと思うが、10 年平均の数値で良いか。近年は毎年気候が違うので、この 10 年で丹波を代表した気候として良いのか、それとも、そういう時代になったということで直近 10 年の扱いと考えたので良いか。

会長：なかなか難しい質問だが、特に気温は丹波市だけでなく、どこも変化しているので、どの期間を標準にするか悩ましいところだと思う。個人的には過去 10 年平均で良いと思うが、年平均気温があるので、可能であればそれを平成 23 年かもっと遡って掲載してはどうか。丹波市も気温は上昇していると思うので、どのく

らい上昇しているか書くと分かるのではないかと思う。

8 ページの地形図の色の違いは標高になっているのか。標高なのであれば、色に対して、何メートルなのかという表記をしていただきたい。

事務局：標高ではなく、写真を掲載している。分かりにくいので標高図の方が良いということであれば改善する。

委員：地勢について、記入の仕方が合っているのか分からないが、「本州一標高の低い中央分水界を中心とした山地に挟まれた～」とあるが、谷中中央分水界を入れる必要はないのか。また、河川争奪が、生きものが交流した大きな原因になっていると思う。低地帯であるとともに、どこかで、由良川水系と加古川水系の河川争奪が繰り返されているという表記があればと思う。

事務局：谷中については確認するが、河川争奪については、そういう事象があったということか。

委員：そういうことがあったというか、今も行われていること。ここが南北の生きものが交流するルートであることから「氷上回廊」と名付けられたというのは間違いないが、その大きな大本が河川争奪になる。

事務局：河川争奪について教えてもらいたい。

委員：もともとあった河川が、違う方に取り込まれていくことで、例えば、日本海と瀬戸内海に流れている河川があって、それが、地震とか何らかの水の勢いで取り込まれて、今まで日本海側に流れていたものが瀬戸内海側に流れたりする。そういうことによって生物の交流が行われてきた。それを抜きにして、単純に低地帯であるということだけでは説明がつかないと思う。そのあたりの言葉の使い方は検討していただきたい。

事務局：いつの時代に焦点を当てて表現するかも含めて検討する。

会長：地形図を修正されるのであれば、各河川の名称とか氷上回廊の場所も、一般の人に分かりやすいという意味では書いた方がPRになって良いと思う。

委員：これから市政としての課題と住民アンケートから抽出される課題が出てくと思うが、課題を明確にしないと次の具体的な方策の設定は難しいと思う。今わかる範囲でも構わないので、市として、どういったところを今後5年間の課題として捉えていこうと考えているのか、それを提示していただいてから検討した方が良いと思うが、どうか。

事務局：アンケート調査結果の整理は現在進めているところで、市政の課題と合わせて、10月末頃に予定している次回審議会には提示させていただく。

会長：一般の方には馴染みのない言葉がたくさん並んでいると思うので、もし可能であれば、そういった言葉については、注釈を載せないで難しいと思う。もう少し分かりやすく書くか、あるいは注釈を載せるか、内容が難しいという印象を受ける。

事務局：できるだけ、分かりやすく書ける部分は分かりやすく書いて、どうしても表現しにくい部分は注釈をつけるなど、両方で対応させていただく。言葉の意味や注釈の必要な言葉があれば指摘をいただきたい。

会長：例えば、「生物多様性」という言葉が出てくるが、アンケート結果をみると、生物多様性を分かっている人は2～3割となっている。それ以外の人は何か分からないと思うので、注釈なり細かく書くなりした方が良いと思う。また、「地域循環共生圏」もキーワード的な形でたくさん使われているが、これが何なのか、もう少し説明が必要ではないか。「生物多様性」と「地域循環共生圏」の2つについては非常に重要だと思う。

引き続き、第3章について何か意見があればお願いしたい。

委員：基本目標の設定として、基本目標1～5とあるが、基本目標2・3では、こういう課題があるから何々しますという書きぶりになっているが、基本目標1は、いきなり「～していきます」となっている。例えば、温暖化が影響をもたらす危険があるなど、理由をもう少し書き足して、書きぶりを統一した方が良いと思う。

事務局：理由とか根拠について、見直しを行う。

会長：脱炭素社会に括弧を付けて、ゼロカーボンシティと書いてあるが、これはゼロカーボンシティで良いのか。社会であればソサエティではないか。

事務局：確認する。三浦委員からの指摘の理由や根拠の追記については、たくさん理由がある場合は、「～など」として、主なものを書く形で良いか。

委員：すべてを書き込むのはボリューム的に不可能だと思う。

会長：23ページの体系図は、基本目標がどうできるかとか、それが書かれるイメージになるのか。

委員：共通目標がなかなか理解しにくい。ネットワークの中でとあるが、どのようなネットワークになるのか。

S R C：計画の体系図については、現行計画の52ページのような、目指すべき将来像と基本目標、施策の方向性等を図示したものを載せるイメージである。共通目標についても、体系図を縦断する形で示したいと考えている。

事務局：現行計画の52ページのような形にするか、行政や市民、企業などの主体を明確にして分けるか。分野別に分けることも可能かもしれないので、見やすい形で整理していきたいと思う。

会長：現行計画には、基本目標ごとに可愛いポンチ絵が載っていたり、生物多様性がコラムで書かれていたり、色々と工夫されているが、今回の計画もそういう形になるのか。

事務局：目次めとかコラムとか、どこからどこまでが計画か分かりにくいという部分もあるが、絵や写真を掲載した紙面構成を考えていきたいと思っている。

会長：字だけでなく、そういうものが入ると、分かりやすく、親しみやすくなると思う。

事務局：それについては、また情報をいただければありがたい。

会長：次に第4章、具体的に実施することについて、意見があればお願いしたい。

委員：基本目標1について、いくつかお聞きしたい。まず25ページ、生物多様性の保全の3つ目で「地域の生態系を保全するため、在来種の活用、特定外来生物への対策を進めます」とあるが、生態系を保全するために在来種を活用するというの

は、しっくりこない表現に思う。

また、有害鳥獣や外来生物の防除について、有効的な捕獲という表現が使われていて、動物が想定されている印象がする。河川敷を見ると、外来種に覆われていたりする。以前も外来種の水生植物があるという指摘もあったので、植物も視野に入れた表現を使っていただけたらと思う。

26 ページの数値目標で気になった点として、4 つ目の有機 J A S 認証農家数の指標が以前から入っているが、環境の保全という視点であれば、むしろ面積を知りたい。農地ごとに認証をしているので、実質的に、環境に影響を強く与えるのは面積ではないか。農家数も良いが、実効性のあるものとして、同時に面積も両方を設定してもらいたい。

同じく、3 つ下の木の駅プロジェクトについても、現状、木の駅プロジェクト参加者数のみになっているが、森林登録も面積として増えてきたはずなので、面積と人数の両方を設定していただいた方が、森林に対するポジティブな影響を計る目安になると思う。他の章でも人数だけの指標になっている部分があるが、面積の評価も欲しい。

事務局：指標については、指摘の通りだと思うので確認させていただく。最初の文章の表現についても確認して見直しを行う。外来種の植物については、対策はしなければならないが、できるのかどうかという点もあるので、担当課に確認する。

委員：25 ページの生物多様性の保全については、もう少し具体的に書いた方が良いと思う。例えば、外来種などの影響を受けやすい生物を積極的に保全しますとか。また、植物と動物の両方あるので、外来種だけで項目出しをして書いた方が良いのではないかなと思う。

それから有害鳥獣については、人の生活圏に侵入してくるものと、非常に増加が著しい動物がいるので、そういったものの適正な捕獲による防除について、兵庫県で特定鳥獣管理計画を策定している。特に、ニホンジカについては各市での目標捕獲頭数が定められている。例えば、「シカ、イノシシについては県計画と連携した積極的捕獲を推進する」とか、「ツキノワグマの被害に関しては、被害補助を行う」とか、具体的に書き込めることがたくさんあると思う。もう少し具体的に書かないと、何のことを言っているのかが非常に分かりにくく、連携して捕獲を進めますというだけでは、少し弱いと思う。既に国や県が積極的な取り組みをしている部分については組み込むと良いと思う。

事務局：全体的に、詳しく書き込めるものについては追加していく。

委員：25 ページに、従事者の高齢化などによる遊休農地の発生とあり、次のページに担い手として集落営農組織の記載もあるが、起業支援などに施策が集中してしまっていて、組合を担っている部分が置き去りにされているような印象を受けるので、そこにも手を差し伸べてもらいたい。

事務局：農業の担い手の育成については考えていく必要があると思うが、起業支援とは別のものだと思っている。既存の組織や組合を応援しながら、担い手も育成していくことを考えていく必要があると思っている。産業振興や農業振興それ

それに計画があるので、そのあたりで対応をさせていただく。

会長：32 ページの3 つ目に、建物の緑化という言葉があるが、何かよく分からないので、これは何か言葉を変えた方が良いのではないか。

事務局：表現を見直す。

委員：32 ページの気候変動に備える、3 つ目で、樹木による二酸化炭素の吸収・固定、省エネに必要なするという内容があるが、市として、農林整備課でも木を使う方の話をされている。今、国で議論されているのは、長寿命な木質製品、家や家具で二酸化炭素を蓄えるという話で、国を超えて海外でもすごく議論がある。これは、丹波市産材を使うということとも一致するので、そこは入れていただきたいと思う。

事務局：具体的に何に使うという話なのか。

委員：建築材とか家具で二酸化炭素をストックするという話で、国際的にも、二酸化炭素のストックという考えでは、カーボンニュートラルよりも、社会の中に二酸化炭素を蓄えていくという議論がされている。

事務局：現状で、丹波市の取り組みとして、丹波市産材を使うという取り組みがあると思うが。

委員：それをきちんと数値化していく。

事務局：二酸化炭素の固定という概念はこれまであまりなかったので、おそらく数値としてはなかなか取られていないと思うが。

委員：カウントされていないだけで、考え方として具体的にそれを入れようという方向になっている。林業振興とも合っているのではないかと思う。

事務局：建築材として長年使うということだと思う。

会長：少し感想になるが、基本目標5で、インターネットやSNSを使って情報発信という内容がある。アンケート結果を見ても、企業では情報がなかなか受け取れていないという結果があったが、何を発信するかということが非常に重要だと思う。必要な情報を発信しないと無意味になるので、何かそのあたりをもう少し明確にした方が良いと思う。情報発信と書いていても、何を発信するのかがよく分からないので、企業の役に立つような情報について、少し考えた方が効率的だと思う。

事務局：何か提案などあればお聞きしたい。

会長：計画の文章はだいたいこんな感じになるが、企業が一体何を欲しているか、欲している情報が発信できると良いと思う。例えば、国の助成金を分かりやすく発信するとか。小さな企業だと、なかなかそういったところまで探すのは大変だと思う。

(2) 令和3年度丹波市環境報告書について

- ・事務局より、資料の説明
(質疑応答)

事務局：実績がかけ離れているものや、実績がゼロの項目もあるが、そういったものに

については、事業ができないのか、していないのか、するとしても適当でないのかというあたりも、各課に確認して調整させていただいて報告したいと思う。
目標値対して成果がどうかという意見もあろうかと思う。

委員：全体的に、古い写真が使いまわされていると思うので、新しい写真とか、事業でも参加人数増えているというデータがあるのであれば、写真を更新してもらいたい。また、36 ページの真ん中のグラフがミュージカルと誤字になっている。

会長：まだ修正できるので、気付いた点について指摘をいただきたい。

委員：ミュージアムについて、昨年度、3 月にリニューアルオープンして、学校の生徒もタブレットを持参して学習している。非常に新しいタイプの地域のミュージアムとして機能していると思うので、氷上回廊を入れていただくというのも良いが、リニューアルオープンした様子の写真とか、新しいタイプのミュージアムであるということについて、新しい取り組みを積極的に実施していることを P R してもらえればと思う。これはいつ発刊されるのか。

事務局：いつということはない。

会長：それは非常に重要なことだと思う。

事務局：写真は全部、確認する。できるだけ新しいものに差し替えるようにしたい。

委員：16 ページの住民参加型森林整備取組組織数は、目標値もほとんど変わらず、実績も 0 ～ 2 組織の間を推移している。3 年間の活動の継続が必要であるということで設定されていると思うが、このあたりは必要なのか。その次の 17 ページも、地域の森林づくり活動組織数、目標値の見直しも必要だと思う。
それと 13 ページの木質バイオマスへの転換量として、取扱原木量の目標値が 16,000 t とずっとなっているが、実際には事業としてはなかなか難しいのではないかとこのところで、支援策があって目標設定がなされているのかお聞きしたい。

事務局：まず活動団体について、17 ページの活動組織数については、市が補助する団体数になるので、市が支援をしているところ、国が支援をしているところ、県が支援しているところをまとめた方が分かりやすいと思うので、その指標に見直したいと思う。

次にバイオマスの現状については、2 年前に補助事業を終了したが、国でも脱炭素と言っているので、今後の情勢も見ながら有効なものにしていきたいと思う。今後の検討課題にしたい。

会長：写真の見直しと誤字を直していただくということで、これは今日の会議で承認することになるのか。

事務局：報告書なので、確認いただいた後に市で印刷を行うものになる。最終的に製本ができれば、また配布させていただく。

委員：7 ページの進捗状況一覧表、基本目標 4 の一番下で、学校給食への地場農産物の使用が△になっているのはどうしてか。

事務局：丹波の農産物を使おうという目標として 30% 以上の目標値となっているが、実績は 20% 程度となっており、なかなか進んでいないという現状がある。丹

波の農産物だけではなかなかものが集まらないというところがあるが、流通経路の整備とかネットワーク化を進めなければいけないと思っているので、教育委員会と農業振興課と一緒に取り組んでいきたいと考えている。

委員：機械でカットされるのにサイズに合わないといった点があるのだと思う。市場があるのにあまり活用されていないのは不思議に思っている。丹波市で野菜がたくさんとれるので、なるべく地産地消でお願いしたいと思う。

事務局：地産地消も、有機農産物の使用も非常に重要なので、プッシュしていきたいと思っている。私たちが答えられるものではないので、そういう意見があったことについては伝えておく。

委員：7 ページで、基本目標 4 に個別の評価で△が 2 つあるが、右側の総合評価で◎となっているのはどうしてか。

事務局：◎を 3 点、○を 2 点、△を 1 点として計算して、総合評価を出している。

委員：29 ページの水洗化の促進、出前講座による環境学習と、環境団体との連携による循環型まちづくりとある。循環型まちづくりは分かるが、出前講座による環境学習が水洗化の促進とあまり一致しないのではないかと感じる。

会長：少し文章が合っていないように思うので、確認してもらいたい。

事務局：文章については再度精査して、全体的な確認作業を行う。

委員：17 ページの野猪等被害防止柵設置の支援で、グラフは鳥獣被害防止柵になっている。野猪等防止柵に統一した方が良いのではないか。

事務局：一般的には鳥獣被害防止柵になる。

委員：どちらかに統一していただいたら良いと思う。

事務局：市の事業は野猪等だが、一般的には鳥獣になる。表記はどちらかに統一する。

3. その他

- ・事務局より、今後のスケジュールについて説明
- ・議事録署名について、会長より後藤委員を指名

副会長：本日はお忙しいところ審議会に参加いただき、また、活発なご意見をいただき、ありがとうございました。これをもちまして、審議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

4. 閉会